

魅力発信 わが校の実践

〈121〉

地域探究 支援「こだま学」推進

来年度、統合により県内初の普通科・専門学科併設校となる本校では、そのメリットを生かし、普通科で専門学科の実習を体験できる科目「ものづくり基礎」を設定する。座学中心の普通科に「実学」を導入し、学習への意欲を高めるとともに課題解決能力を育成する。また、普通科単独校では難しい、専門学科で実施

埼玉県立児玉白楊高校 ①

<p>伝統123年の誇り 児玉白楊高等学校</p> <p>地域の産業を支える農業者と工業の技術者・スペシャリストを輩出!</p>	<p>+</p> <p>統合</p>	<p>伝統100年の実績 児玉高等学校</p> <p>地域の発展に担う人材やスポーツアスリート・オリンピックのゴールドメダリストを輩出!</p>
<p>223年分の信頼 「児玉プライド」</p>	<p>地域課題探究型高校 埼玉県立</p>	<p>県内初の 普通科と農業科・工業科の 併設高校</p>
<p>新生児玉高等学校</p> <p>【目指す学校像】(スクール・ミッション) ●まちの創生を担い未来の地域産業を支え、学ぶ意欲と社会性を身に付けた心豊かな人材を育てる学校</p>		

するさまざまな検定・資格取得にも挑戦できるよムが必要である。そのうになる。そして、これら組織体制づくりには、学校の土台となるのが地域学「こだま学」である。「こだま学」を推進するためには、それを支える協働的な組織、「地域学」(以下「C・S」)を活用する。普通科・農業科・工業科を併せ持つ新校が、より効果的に地域学を展開するには、農業・工業関係者、自治

学ぶ意欲と社会性を身に付けた心豊かな人材の育成を目指す

体および地域住民等からなるC・S委員を構成することが重要である。委員の選定については、J A、地元農業従事者、商工会議所、地元工業団地、市役所企画財政課、市教育委員会、大学およびP TA等で構成することを現在検討中である。「こだま学」の1年次では、C・S委員や委員から紹介された地域の方々に地域の産業・文化・偉人などを紹介していたが、「地域魅力化」というのが、地域に魅力がないのではなく、単に知らないだけではないのか。「知ること」で地域への愛着・誇りを育んでいく。同時に世代を超えた交流を行い、普段抱えている課題等も話していただく。2年次にも「知ると」交流を繰り返して、「交」を推進する所存である。

(黒田勇輝校長)